



押絵展示風景

押絵 (おしえ)

押絵は、厚紙に下絵を描いて形を作ったものに裂(きれ)を貼り、その間に綿を入れて立体感をだして仕上げる人形で、はじめは女官や奥女中など高貴な女性たちからはじまりました。

やがてこの技法は庶民層にも広がり、貴族や武士のように京人形のお雛さまなど望めなかった人々の間で盛んになりました。女性のたしなみの一つとしてはじまった押絵が、次第に老若男女に浸透し、各地で習い事の域を越えた見事な押絵が作られるようになりました。

角館でも江戸時代後期には始まり、明治・大正期に隆盛をみました。特に日本画家平福穂庵を代表とする郷土画人や、祭りの人形師などが面相を担当した押絵は、完成度も高く芸術性にあふれた人形が作られています。

押絵は、内裏雛・官女・五人囃子などの雛ものや、恵比寿・大黒などの縁起もの、桃太郎・金太郎などの童話ものと多岐にわたっていますが、角館では芝居好きが多く仮名手本忠臣蔵・菅原伝授手習鑑・勸進帳といった歌舞伎ものが多く作られています。

以前は各家々で雛壇いっぱいこうした押絵が飾られ、背景には錦絵が配されて華やかに桃の節句を祝った角館のひな祭りの風景が、最近はずいぶん復活しています。



押絵「紫宸殿鶴退治」



押絵「仮名手本忠臣蔵」



享保雛

角館樺細工伝承館

〒014-0331 秋田県仙北市角館町表町下丁10-1

TEL 0187-54-1700 / FAX 0187-54-1701